

令和4(2022)年度 資源評価調査状況報告書(新規拡大種)

ブロック：西海ブロック

ハマトビウオ

海域	太平洋鹿児島県	参加機関	水産研究・教育機構 水産資源研究所 浮魚資源部、鹿児島県水産技術開発センター
----	---------	------	--

(1) 調査の概要

- ・水産資源研は、調査指針の作成および状況報告書の取りまとめを行った
- ・鹿児島県は、生物情報収集調査を行った

(2) データ収集状況

- ・九州南部海域の標本漁協における月別漁獲量データおよびトビウオ浮敷網漁船の月別水揚げ統数を収集した。標本漁協における2022年の漁獲量は36トンで前年(56トン)、平年(2012~2021年の平均：190トン)を下回った
- ・九州南部海域で漁獲されたハマトビウオの精密測定を漁期に月1回程度実施し、産卵期および漁獲サイズ等を把握した。2022年は2、3月に3回の精密測定を実施し、計65尾の測定を行った

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：詳細な回遊経路は明らかになっていないが、伊豆諸島~九州南部の太平洋側を回遊していると示唆されている(米沢ほか 2012)
- (2) 年齢・成長：成長様式は得られていないが、尾叉長・体重ともに雌の方が大きい傾向がある
- (3) 成熟・産卵：GSI(生殖腺発達指数=生殖腺重量/体重×100)による各月の生殖腺の発達状況により、九州南部海域における産卵期は2~4月と推察されている。成熟年齢は1歳と推察されている
- (4) 被捕食関係：情報収集中

(4) 備考

- ・漁獲量やCPUE等の動向には漁場への来遊条件の影響も大きいと考えられ、資源状態を判断するには情報が不足している

引用文献

米沢純爾・橋本 浩・川端 淳・伊藤進一・立石章治(2012)ハマトビウオ漁況の長期変動とその要因に関する研究. 黒潮の資源海洋研究, 13, 15-21.